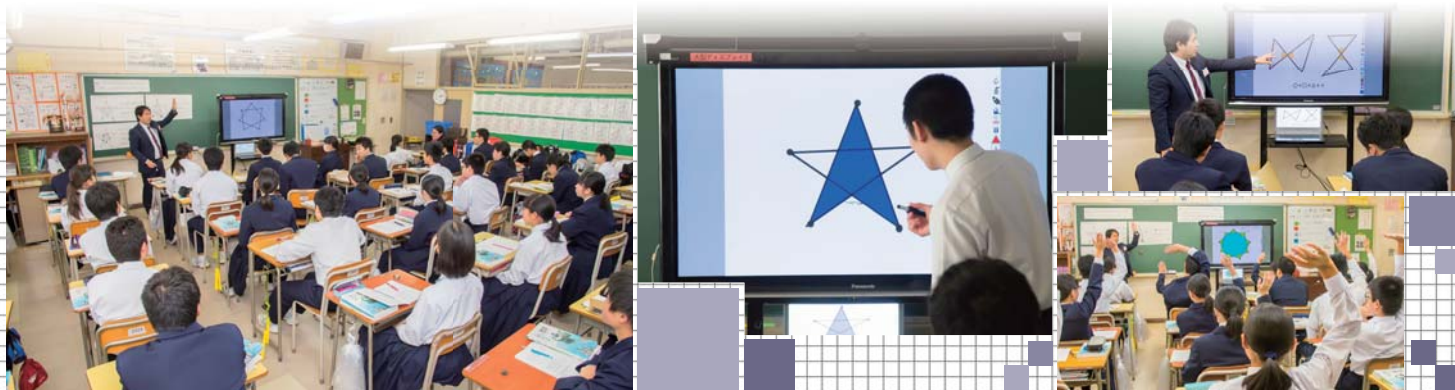


導入事例
てれたっち

「てれたっち」で「見せるだけ」から「書き込める」へ。
時間効率の改善や見せ方の工夫が、学習効果につながりました。



青森市の中心地に位置する青森市立南中学校は、市内最大の生徒数で知られる中学校です。地域からの注目度も高く、また学力に対しても大きな期待を集めています。同校で「てれたっち」を駆使して授業に取り組み、生徒の学力向上をはじめ、大きな効果を達成されているという中谷亮先生(数学)と赤平雄太先生(技術)にお話を伺いました。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

「見せるだけ」から、「書き込める」へ。「てれたっち」で理想が現実

「てれたっち」導入前の状況について教えてください。

赤平先生:私の担当する技術科では、実技を説明するのに大型ディスプレイとデジタルカメラを利用していました。手本となる自分の作業をデジタルカメラで録画し、これをいつでも再生できるように大型ディスプレイと接続しておきます。技術科は1人で40人ほどの生徒の実技を指導するため、十分な時間があるとは言えず、基本的な説明に時間を割きすぎないよう、「手本動画」を使うなどの工夫をしてきました。

中谷先生:私の担当する数学では、特に図形の授業でディスプレイを使っていました。黒板に図形を描き写すのは大変な作業ですので、取り込んだ図形の画像をディスプレイ上に表示するわけです。しかし、黒板と違って書き込みができませんので、「このままディスプレイ上に補助線が引いたら便利なのに」とは常々思っていました。そこに「てれたっち」が導入されて、まさに理想が実現しました。



様々な図形を表現



書き込み、保存、消去も一瞬で

「考え方の経緯を説明したり、別の可能性を示したりするのにも最適

「てれたっち」で、先生方の教え方にどんな変化がありましたか。

中谷先生:「てれたっち」は、経緯を説明したり、別の可能性を示したりと、考え方のバリエーションを展開するのに優れています。あらかじめ様々な解法について画像を用意しておけば、ペンでタッチするだけで次々と表示できます。黒板の場合には、自分で書いた補助線などを少しだけ消そうと思っても、全部が消えてしまいます。「てれたっち」ならば、一手、二手と書き込んだ内容を戻すことも簡単に行えます。

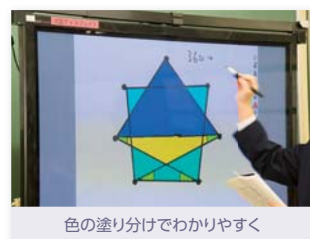
赤平先生:技術科では、動画の見せ方が格段によくなりました。これまで「全体のわかる引いた画面」と、「手元の拡大画面」の動画を同時に見せたいと思っていましたが、従来の環境ではディスプレイもカメラも2台ずつ必要でした。「てれたっち」は複数の動画を並べて同時再生したり、動画上にタッチペンで書き込んだり、また保存することもできて重宝しています。作業時の生徒の失敗はずいぶん減りました。

「生徒からは『てれたっち』を使った授業は時間が短く感じる」という声も

授業のテンポがよくなり、教えられることが増えたそうですが、学習効果について、具体的に教えていただけますか。

中谷先生:図形の書き写しにかかる時間など、指導のための準備時間が削減できています。「てれたっち」のおかげで、練習問題を1問余計に解ける程度の余裕ができましたね。今まであきらめていた応用の練習問題も、授業時間の中でこなせるようになったんです。たとえば従来は1時間の授業で教えるのは星型五角形のみが限界でしたが、同じ時間内で星型六角形、星型七角形、星型n角形まで教えることができますから、学力の向上効果も期待できます。ワークシートを配ってクラス全員で取り組むことも多いですが、そんな時も「てれたっち」でワークシートを取り込んで、ディスプレイに表示しています。こうしておけば、どの問題を説明しているのかがすぐにわかりますし、コツやヒントなどを書き込めます。生徒からは、「てれたっち」を使った授業は時間が短く感じる」という声も聞こえてきます。

赤平先生:教育の世界は、アナログからデジタルへと移行する時代の転換点です。今あるもののよい部分は残しつつ、変化していく必要があり、我々のような現場の教員もICTの取り入れ方を模索すべき時です。教員が教えるための道具としてはもちろんですが、生徒が主体となって使えるICTというのも1つの理想。「てれたっち」は、それを実現してくれるツールだと考えています。



色の塗り分けでわかりやすく

取材にご協力いただいた先生



青森市立南中学校
中谷 亮 先生



青森市立南中学校
赤平 雄太 先生



CLIENT DATA

導入学校/
青森市立南中学校

所在地/
青森県青森市

開校/
1970年